シラバス参照

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT4612		
科目名	危機管理特殊研究２		
担当教員	美濃輪　正行		
対象学年	3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	水４		
講義室	1315	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	演習・ゼミナール等		
科目小分類	-		
科目の位置付け（開発能力）	■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 ＤＰ１－Ｅ　［学識・専門技能］専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ＤＰ４－Ｆ　［探究力・課題解決力］問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 ＤＰ３－Ｈ　［論理的思考力］理論整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 ＤＰ４－Ｉ　［理解力・分析力］文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連 CP1-E1　学識・専門技能　学識と専門技能（２０%） CP4-F2　課題解決（２０%） CP3-H1　論理的思考（２０%） CP4-I1　理解・分析と読解（２０%） CP4-I3　情報分析（２０%）		
教員の実務経験	担当教員は、当大学着任前に情報サービスを提供する民間企業で勤務しておりました。本講義で取り扱う内容は、情報システムの知見を深めるために必要とされるものです。情報システムに関する知見は広範囲に亘っており，技術的な知識の理解に留まることなく、包括的な視点からの考察が求められます。担当教員は情報サービスを直接提供する立場でシステム構築や運用管理等で様々な経験を積んでおり、これらの実務経験を積極的に講義に取り込んでいく所存です。(第６～１4回)		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応 ２進行期～３発展期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。これによって、学生自身がキャリア形成にもつながるように危機管理とITに関する興味を喚起して、専門的な研究を自主的に進めます。教員は自らの実務経験に基づいたいくつかのテーマを設定し、 学生が自らのキャリア形成に役立つと考えるテーマを選択、理解を深めます。情報技術に関する知識や教養を養うことに加えて、危機管理において必須となるコーディネート、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、危機管理に関する実務についての知識を習得するための基礎的な指導を行います。講義は基本的に演習形式で行います。なお，授業の一部を補完するため，あるいは代替するためにディスタンスラーニングを取り入れる場合があります。		

<table>
<tr><td></td><td>（キーワード）
情報セキュリティ、Disaster Recovery、Big Data、AI、サイバー攻撃、サイバー犯罪</td></tr>
<tr><td>授業の趣旨</td><td>■副題
危機管理から考える企業の情報技術活用のあるべき姿
■授業の目的
近年、人工知能、先端医療、宇宙工学等の最新技術によって社会や企業は大きく変わりつつあり、その潮流は留まることを知りません。中でも情報技術に関する分野は影響が大きく、人工知能に端を発する労働問題、情報システムに過依存な状況での大規模災害時の対処、データ活用による分析・知識ベース化によるビジネスモデルの変革、巧妙に進化を遂げるサイバー攻撃など、課題は多く存在します。本講義では、災害対策、最新技術、情報セキュリティの観点で、基本となる知識を整理して、危機管理の視点から課題意識を醸成し、更に公企業・私企業の組織で情報技術活用の最適化と何かということを考える端緒となることを目指します。
■授業のポイント
情報技術の領域は広範囲であり、特定分野を深く理解したとしても必ずしもそれが企業が求める知見ではないことが十分考えられます。本講義では、危機管理の視点から災害対策、ビッグデータ、AI、IoT等の最新技術、情報セキュリティに分類して、具体例を交えて各々の技術分野を俯瞰します。複数分野で自らの興味をもつものを実務的な視点から理解して，その成果をレポートとしてまとめることをゴールとします。</td></tr>
<tr><td>総合到達目標</td><td>■ 実社会で様々な危機に対峙するために，ITの技術分野で危機管理に関する問題を様々な視点から考察できるようになる。
■ 個別の目標は次の通り。
・①DR（大規模災害対応）、②最新技術（Big Data、IoT、AI）、③情報セキュリティのいずれかの分野で自らが興味の対象となる問題を特定する。
・類似の問題や当該問題の周辺事情から、どの様な解決策が案出できるか、調査・考察できるようになる。
・自らが考えた解決案を意見交換会の場や教員の助言から、客観的に評価して洗練できるようになる。
■ 成果物は危機管理特殊研究１の成果物である「研究レポート構想計画書」に基づいて学生自身が選択したテーマをで研究レポートを完成するものとする。</td></tr>
<tr><td>成績評価方法</td><td>■ 研究レポート構成の文書化 1回（１０%）：適用ルーブリック　Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３
（評価の観点）
＊ 危機管理特殊研究１の成果物「研究レポート構想計画書」を元に、与えられた条件に基づいてにレポートの目的、展開、目次、参考資料ついて文書化して、レポート作成計画の妥当性について検証します。
（フィードバックの方法）
*各受講生が発表、相互にレビューします。
＊ 成果物を確認して、教員が各学生に個人指導を行います。
■ 研究レポート提出 1回（６０%）：適用ルーブリック　Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３
（評価の観点）
＊ 事前に練った構成に従ってレポートのドラフト版を作成、それらの品質について確認します。
＊ 技術の適格性、表現力、論理的思考力、洞察力がの観点から評価します。
（フィードバックの方法）
＊ 成果物を確認して、教員が各学生に個人指導を行います。
■ 授業参加度（３０%）：適用ルーブリック　Ｃ１
（評価の観点）
講義の中で各学生が研究成果を発表，所定の条件を満たすか否か確認します。
出席状況も勘案します。
（フィードバックの方法）
発表に対して参加学生と教員で議論及び評価します。
出欠情報は総合ポータルシステムに公開します。</td></tr>
<tr><td>履修条件</td><td>「情報システム論」の知識や手法を理解していることが望まれます。未履修の学生は教員指定の教材を使ってこれらの知識を修得すること。</td></tr>
<tr><td>履修上の注意点</td><td>特にありません。</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td>
<table>
<tr><th>回</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>①授業テーマ
ガイダンス（コース目標・運営・評価）
②授業概要
ガイダンスとして講義の方針と目標、運営方法、講義の構成、評価方法について説明します。(Ｉ１)</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

	③予習（240分） 危機管理特殊講義１の研究レポート構想計画書の成果物を再考すること。
2	①授業テーマ 研究レポート構成レビュー準備 ②授業概要 危機管理特殊講義１の最終レポート成果物である研究レポート文書構成及び作成計画を洗練するため、研究レポート作成のための目的の検証、執筆条件の確認、文書化の考慮点、参照資料の提示等を行います。受講生はこれらの項目について熟考します。(Ｉ１・Ｅ１・Ｈ１) ③復習（240分） 研究レポート文書構成及び作成計画を洗練させて、研究レポート構成文書として編集、提出します。実現性、展開、分量等について再考します。
3	①授業テーマ 研究レポート構成文書のレビュー① ②授業概要 作成した研究レポート構成文書を発表して相互にレビューします。(Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） レビューを受けて、論旨展開の整合性、目的達成の実現性について各自のレポート構成を再考します。
4	①授業テーマ 研究レポート構成文書のレビュー② ②授業概要 作成した研究レポート構成文書を発表して相互にレビューします。(Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） レビューを受けて、参考資料を見直し執筆内容にかかる情報の最適化を諮り、各自のレポート構成を再考すること。
5	①授業テーマ 研究レポート構成文書のレビュー② ②授業概要 作成した研究レポート構成文書を発表して相互にレビューします。(Ｅ１・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） レビューを受けて、参考資料を見直し執筆内容にかかる情報の最適化を諮り、各自のレポート構成を再考すること。
6	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版レビュー準備 ②授業概要 編集中の研究レポート・ドラフト版を洗練するため、ドラフト版作成のための条件の確認、文書化の考慮点、参照資料の提示等を行います。担当教員は実務経験を踏まえて論評し，受講生は編集中の成果物について考察します。(Ｉ１・Ｈ１・Ｉ３) ③復習（240分） 研究レポート・ドラフト版を編集すること。文書形態、展開、論理的な整合性、技術的確性等について検証すること。
7	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー① ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。成果物について適宜編集・追記すること。
8	①授業テーマ 研究レポート・ドラフト版のレビュー② ②授業概要 作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。

	9	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー③ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。
	10	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー④ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。
	11	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー⑤ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。
	12	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー⑥ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。
	13	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー⑦ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は成果物について適宜編集・追記すること。
	14	①授業テーマ 　研究レポート・ドラフト版のレビュー⑧ ②授業概要 　作成した研究レポート・ドラフト版を発表，担当教員は実務経験を踏まえて論評し，相互にレビューします。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　レビューを受けて各自の研究レポート・ドラフト版を検証すること。受講生は完成した成果物を提出すること。
	15	①授業テーマ 　総括 ②授業概要 　提出された研究レポート・ドラフト版の個別または包括的な評価について解説します。受講生は成果物について自己評価して、長所・短所を把握して次回の研究レポート完成版への道程を探ります。(Ｅ１・Ｆ２・Ｈ１・Ｉ１・Ｉ３) ③復習（240分） 　評価解説を受けて各自の研究レポート・ドラフト版を再考すること。課題レポート完成版への具体的な課題を探ること。
関連科目	情報システム論(RMGT 3576)、サイバーセキュリティ論(RMGT 3573)、デジタルフォレンジック(RMGT 3577) 、危機管理特殊講義２（デジタルリスク）が関連します。	
教科書	特にありません。講義で使用する資料は教員から提供します。	

参考書・参考ＵＲＬ	講義中に適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に公開します。 ■オフィスアワー 火曜５限を予定しています。
研究比率	■ 危機管理四領域との対応 情報セキュリティ：85% 災害マネジメント：5% パブリックセキュリティ：5% グローバルセキュリティ：5% ■ 危機管理と法学との割合 危機管理：95% 法学：5%

戻る